# 多摩六都科学館　事業評価報告書

平成29年度～平成31年度（3カ年）の中期計画における

**平成30年度（2018年度）実績報告ならびに事業目標の達成度などに関する評価報告**

**本報告書の構成**


| | | |
|---|---|---|
| **多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方** | | 1頁 |
| **多摩六都科学館事業評価票** | | |
| | **1. 指定管理者による自己評価ならびに外部評価　ー5つの事業目標ごとの評価ー　①～⑤** | 2～11頁 |
| | **2. 多摩六都科学館組合による自己評価ならびに外部評価** | 12～16頁 |
| | **3. 総評　使命ならびに活動理念の評価** | 17～18頁 |
| | **参考資料** | 19～21頁 |


**令和元年７月**

**多摩六都科学館組合**

**指定管理者：株式会社 乃村工藝社**

# 多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方

## 1. 多摩六都科学館における事業評価の意義

多摩六都科学館は、平成25年度（2013年度）に策定した第2次基本計画（平成26年度～令和5年度／2014年度～2023年度）に基づき、事業評価を実施する。事業評価を導入することによって、基本計画に掲げた使命ならびに事業目標の達成度や事業の取組姿勢・進捗状況が検証可能な中長期の目標管理システムの構築をめざす。

評価結果を事業の修正、翌年度の予算編成や事業計画に反映させ、計画（Plan）－実行（Do）－評価検証（Check）－改善（Action）のPDCAマネジメントサイクルを機能させ、継続的な業務改善・サービスの向上が図られるよう努める。また、評価結果を公表することにより、構成市ならびに圏域市民に対して、公の施設としての社会的説明責任を果たし、公的事業の透明性を図るものとする。

## 2. 事業評価の進め方

平成26年度は試行として進め、業績指標・検証方法などの検討を行い、本格導入は平成27年度からとする。

多摩六都科学館の事業評価は、中期で事業方針を定め、その進捗状況や目標の達成度を経年変化で検証する。第1期は平成26年度～平成28年度、第2期は平成29年度～平成31年度の3カ年とする。

各年度の事業評価は、多摩六都科学館組合と指定管理者が自己評価（1次評価）を行い、さらに事業評価委員会（構成員は科学教育や博物館運営に関わる有識者と圏域の市民）による外部評価（2次評価）を行い、その結果を事業評価報告書としてまとめ、事業報告書とともに構成五市に報告し、情報公開という流れで実施する。

| | 第2次基本計画の期間（H26～R5/2014~2023） | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
| 中期 | 3カ年 | | | 3カ年 | | | 3カ年 | | | |

## 3. 事業評価の概要

| 評価実施者 | 評価の種別 | 概要（評価対象ならびに進め方など） |
|---|---|---|
| 指定管理者 | 自己評価<br>1次評価 | 第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に沿って、指定管理者が定めた「事業計画の基本方針」（中期3カ年の事業目標）の進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に自己評価を行う。<br>指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。<br>各年度の事業結果の詳細は、「事業報告書」をとりまとめ、報告・公表する。 |
| 多摩六都科学館組合 | 自己評価<br>1次評価 | 第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」が達成できるよう、計画された「重点戦略」および「中期で重点的に取り組む戦略」のうち、組合が推進すべき取組について、進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に評価を行う。<br>指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。 |
| 事業評価委員会 | 外部評価<br>2次評価 | 第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に向かって科学館の管理運営を推進できたかを、年度毎に外部評価を行う。<br>指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。 |

## 4. 業績指標の検証方法

多摩六都科学館では、下記方法で業績の検証を行う。数字だけでは実態を把握できない取組姿勢や進捗状況なども定性的に自己評価し、中長期的な目標の達成度を検証できるように試みていく計画である。

| 類型 | 検証時期 | 検証方法 | ベンチマークス | 調査実施者 |
|---|---|---|---|---|
| A | 毎年 | 結果データを定量的に検証 | 経年変化を検証 | 指定管理者 |
| B | 毎年 | 取組内容を定性的に検証 | 経年変化を検証 | 指定管理者・組合 |
| C | 毎年 | 利用者を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証 | 経年変化を検証 | 指定管理者 |
| D | 毎年 | 市民モニターなどを対象にインタビュー調査を実施し、定性的に検証 | 経年変化を検証 | 組合（指定管理者協力）<br>H27年度から実施 |
| E | 中期の区切りで | 圏域市民を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証 | 平成28年度のデータと比較し、変化を検証 | 組合（指定管理者協力） |
| F | 中期の区切りで | 事業評価委員会・市民モニターが取組内容や成果を定性的に検証 | 平成25年度、28年度の状況と比較し、変化を検証 | 組合（指定管理者協力） |
| **G** | 中期の区切りで | 設定ターゲットに対して内容や成果を定性的に検証（FGI） | H31に実施、効果を検証 | 組合（指定管理者協力） |
| **H** | 中期の区切りで | 設定ターゲットに対してアンケートを実施し、定量的に検証 | H31に実施、効果を検証 | 組合（指定管理者協力） |

## 5. 段階評価の基準

自己評価の目標の達成度ならびに外部評価の評定は、段階評価で実施する（詳細については別紙参照）。

| 評価 | 評価内容・基準 |
|---|---|
| A++ | 優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。 |
| A+ | 良好：目標に対し良好な成果を挙げている。内容に優れた点が見られる。 |
| A | 適正：計画に則して目標を達成している。内容が適正である。 |
| B | 改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。 |
| C | 見直し：目標がほとんど達成できていない。抜本的な改善が必要である。 |

## 1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

| 第2次基本計画 | | | 指定管理者・事業計画 |
|---|---|---|---|
| 事業領域 | 事業目標-1 | 取組方針 | H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針 |
| 事業計画<br>**科学館事業**<br>**（中核事業）** | **多様な学びの場の創出**<br>多摩六都科学館は、これまでの科学館事業を継承しつつ、さらに活動や場を拡げ、誰もが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。 | 多摩六都科学館の中核事業です。「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はこれまで通り大切にしつつ、幅広い年齢層も利用できる施設へと徐々に領域を拡げます。多くの方々が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざします。 | **科学の楽しさを実感できる学びの場と機会を創造する。**<br>多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、2020年からの学習指導要領にもある『主体的・対話的で深い学び』を実現する事に重なる。これは「実感を伴う理解の場と機会を提供する」対話的・体験的な事業の実現でのみ可能と考えられます。このため、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーション(解説計画)のさらなる充実をめざします。<br>中核事業の活動のテーマでもある「ＤＯ！サイエンス」とは、「実感を伴った理解を図る学習活動」の場と機会の提供しその中で、観察・実験・工作といった学校では体験しにくい活動を重視します。 |

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　　↓別表参照

| 重点戦略 | 事業概要 | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ● 専門性とエンジョイメントを基本とし見通しを持った体験による実感を伴った理解とコミュニケーションを重視した、探求的で主体的な学びとなる事業を行います。 | Ⅱ-1.科学館事業全体 | ● 「コミュニケーション重視の体験が充実」と答えた人の割合 | ＊ | C | 今後、測定予定 | | | | | | | | |
| | | ● 「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合 | ＊ | C | 〃 | | | | | | | | |
| | | ● 科学への興味喚起度（利用者調査・定量的） | ＊ | C | | | | | 89.3% | 89.3% | | | |
| | | ● 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的） | | D | | | A+ | A+ | A+ | A+ | | | |
| | | ● 幅広い年齢層からの支持（削除） | ＊ | C | | | | | | | | | |
| | | ● 常設展示　満足度（館内アンケート） | ＊ | C | 80%以上が満足 | 78.1% | 84.5% | 79.8% | 74.8% | 78.6% | | | |
| | | ● 企画展示　満足度（①館内アンケート、②会場アンケート） | ＊ | C | 80%以上が満足 | ①72.0%<br>②85.0% | 74.0%<br>89.0% | 81.5%<br>83.7% | ①74.8% | ①71.4% | | | |
| | | ● ①プラネタリウム・②大型映像　満足度（館内アンケート） | ＊ | C | 80%以上が満足 | ①92.5%<br>②83.3% | 90.4%<br>76.2% | 89.8%<br>79.5% | ①90.1%<br>②78.3% | ①89.6%<br>②77.9% | | | |
| | | ● 参加体験型学習プログラム　満足度（各プログラムで実施しているアンケート） | ＊ | C | 80%以上が満足 | 99.0% | 99.0% | 99.0% | 99.9% | | | | |
| | | ● 学校団体　総合的な満足度　（H29参考値：学習投影での学習効果が高いとチェックした割合） | ＊ | A | 80%以上が満足 | | | | 81.0% | 93.0% | | | |
| | | ● 〃　展示に対する満足度（H29参考値：展示見学での学習効果が高いとチェックした割合） | ＊ | A | 80%以上が満足 | | | | 85.0% | 97.0% | | | |
| | | ● 〃　学習効果　（H29参考値：学習プログラムでの学習効果が高いとチェックした割合） | ＊ | A | 80%以上が満足 | | | | 72.0% | 83.0% | | | |
| | | ● 「主体的・対話的で深い学び」に対応するプログラムの開発や実施に向けての取組 | | B | | | | | 実施 | 実施 | | | |
| ● ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが分け隔てなく参加して楽しめるよう、子どもだけでなく、高齢者も障がいのある方も、すべての人々がともに楽しみながら学べる場と機会の創造に努めます。 | | ● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組 | | B | | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組 | | D | | | | | B | A | | | |
| | | ● リピーターの比率の維持 | ＊ | C | 50%～60%を維持 | | | | 58.4% | 65.0% | | | |
| | | ● ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● 年齢別プログラムや事業の取組数（削除） | ＊ | A | | | | | | | | | |
| | | ● 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（削除） | | D | | | | | | | | | |
| ● 展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。特に東京の自然史（地域資源）を重要テーマと位置づけます。 | Ⅱ-1-1 | ● 調査研究活動 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● 標本資料や装置の充実（研究成果の市民への還元）（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| ● 多様なテーマ（健康・食・芸術など）を科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。様々な利用者層に合わせたプログラムで、科学への興味を引き出す場をつくりだします。 | | ● 多様なジャンルとのコラボレーション企画開発 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● 地域連携イベントなどの実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ＜組合＞ | ● 行政への働きかけや体制整備に向けての取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| ● 館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。特に来館しづらい環境にある学校に対してアウトリーチ活動を行っていきます。 | Ⅱ-1-5-4<br>Ⅱ-2全体 | ● 圏域五市小学校へのアウトリーチ活動 | ＊ | A | 各市1校ずつ5校実施 | 10校 | 11校 | 12校 | 10校 | 9校 | | | |
| | | ● 圏域五市中学校へのアウトリーチ活動 | ＊ | A | 5市で1校は実施 | 3校 | 2校 | 1校 | 1校 | 1校 | | | |
| | | ● その他の機関などへのアウトリーチ活動 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● ボランティアによるアウトリーチ活動 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | ＜組合＞ | ● 業務基準書改訂に向けた検証（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| ● 市民や機関と連携を図り、圏域内に科学教育の場が拡がっていくことも視野に入れて事業展開を図ります。 | 組合との協働 | ● 圏域内でのアウトリーチ活動の推進 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 重点戦略 | 事業概要 | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中期的な指標（主は組合・指定管理者協力） | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量）（削除） | * | E | | | | | | | | | 5.49 |
| | | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定量）<br>指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につき、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館 | * | E | | | | | | | | | 4.99 |
| | | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度） | | F | | | | | | | | | A+ |
| | | 科学の担い手の育成（定性） | | F | | | | | | | | | A+ |
| | | 継続的なユーザーの評価 | | G | | | | | | | | | |
| | | 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか（定性） | | F | | | | | | | | | A+ |
| ひとりで展示を見るだけではなく、その場に参加した人たちで、ともにつくりあげていくプログラムへと転換を図ります。 | Ⅱ-1全体 | 参加体験型の学習活動の拡充（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | 実施 | | |

平均値：4.94

## 4. 評価結果（定性評価）

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果･成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | 東大農場・演習林を守る会やむさしの自然史研究会と東大農場・演習林や館庭の昆虫調査を実施。今後、昆虫調査結果を整理し、展示室4「しぜんの部屋」に展開する。<br>夏の企画展では初めて数学をテーマとし、パズルを切り口として楽しみながら数学に触れる内容で開催、昨年の昆虫展には僅かに及ばなかったが期待通りの集客結果を得た。<br>大人向け平日講座として『大人のための地球科学入門』をテスト的に2回開催、当初は参加者が来るか懸念されたが、2回共に満席となる参加者となった。<br>大人向けプログラムはサイエンスレクチャーやサイエンスカフェが中心であったが、今後このような講座の開催も進めていく。<br>サイエンスカフェでは、カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）との協力で初めて外国人講師による全英語（通訳なし）で開催したところ、従来より中高生の割合の高い開催となった。英語で質問する中学生もいて非常に活発なカフェとなった。 | 地域の自然保護で活動している個人や市民団体からは、地域のハブとして生物・植物のデータベース機能を館に期待されているが、費用の面やスタッフの面もあり、どれだけ期待に応えられるかが今後の課題。少なくとも館庭の生きもの調べは継続していく。<br>パズル展は、貸出開催のオファーも受けるほどの高い企画精度といえるが、今後はこのようなコンテンツを他施設（乃村工藝社の指定管理施設以外を含め）に展開するか（できるか）を検討していきたい。 | A | A | 現状に満足せず、常にミッションを達成するために、独自の企画や新しい挑戦に取り組んでいる姿勢がすばらしい。具体的には、大人向けの平日講座、全英語のサイエンスカフェ、数学をテーマとした企画展、活発なアウトリーチ活動など。今後も、これらの事業を継続的に発展させてほしい。<br>また、学習投影が平成29年度に圏域の全校が参加した実績は、これまでの継続的な努力の賜であり、この点も大いに評価したい。<br>科学館事業を推進する体制として、地域で活動している個人や団体との関係を強めていることも大きな成果と言えよう。<br>ただし、アンケートで来館者の「満足度」が80%を切っている事業がある点をどう読み取り、今後どう対応していくかの検討が必要。 |
| H30 | 企画展は、春に圏域の川、夏に圏域の鉄道を取り上げ、圏域の自然と生活にフォーカスし地域づくりの深耕を図った。川では武蔵野美術大学のアーティストと各川を拠点とする市民団体と、鉄道では西武鉄道とJRと密接な連携で意味深い企画展が実施できた。<br>昨年度から始めた大人向け平日講座は、地球科学だけではなく現代天文学、地学フィールドワーク、プログラミング、ハーブドリンク作りと種類・回数を増やしておりほぼすべてが満席の状況となっている。<br>体験学習では、ラボや科学教室での参加型教室を実施した。<br>昨年度末に揃えたプログラミング教室用機材を使用し、また連携先の聖望学園のサポートもあり、プログラミング関連教室は、教師向け、大人向け、子供向けの各教室の実施が本格スタートし、圏域のプログラミング教育の先陣を果たし注目されている。<br>サイエンスレクチャーやサイエンスカフェでは、連携先の高エネルギー加速器研究機構（KEK）、カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）、東京大学宇宙線研究所（ICRR)他の連携先に加え、従来大学施設などで開催されていた仁科記念講演会をプラネタリウムドームで開催し、仁科記念財団理事長の小林誠先生（2008年ノーベル物理学賞受賞）に開会の挨拶をしていただいた。 | 圏域にスポットを当てた展示には集客力の面で課題が残るが、参加性を高めるなどの工夫を加え今後も取り組むべき課題としている。<br>2020年より開始されるプログラミングについて、圏域の学校からの支援要請が多く寄せられているが、どれだけ要望に応えられるか体制整備を進めたい。<br>また利用者の少ない中学生・高校生・大学生については、圏域大学や高校との連携ワークショップも試みたい。<br>科学館の魅力のひとつに充実したコンテンツがあるが、予定調和化しつつある常設展示をスタッフが意識的に解説手法も含め変えていく力を伸ばしたい。<br>懸案となっている博物館相当施設登録については、標本整備などを進め、組合と協力して登録実現を図りたい。 | A+ | A+ | **今年度事業の成果に対する評価**<br>地域づくりの深耕のなかで、圏域の川や鉄道などの地域に根差した資源や情報を活用し、市民団体や大学との連携協力で意義深い内容の企画展を実施している点を高く評価する。<br>また、今後学校より要望増加が見込まれるプログラミング対応のために、その機材を早期に導入・活用し、各対象に向けた教室をスタートさせ本格実施につなげており、新たな事業にも取り組み毎年進化がある点も高く評価したい。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>大人向け平日講座については、平日の来館者増や生涯学習の場の拡大にもつながるので、今後一層の充実を図ってほしい。<br>また、展示やプログラムを実施する際には、来館者側に立ち、館の使命（ミッション）と来館者の求めるもの（ニーズ）のすり合わせに一層留意されることを期待する。<br>博物館相当施設登録をめざして、今後も指定管理者と組合が一体となって協力し、実現に向けて一層の努力をしてほしい。 |
| R1 | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

| 第2次基本計画 | | | 指定管理者・事業計画 |
|---|---|---|---|
| 事業領域 | 事業目標-2 | 取組方針 | H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針 |
| 事業計画<br>**地域拠点事業** | **多摩六都の交流拠点**<br>多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、生涯学習や社会参画の場として活用できるよう、地域の交流拠点（ハブ）となります。 | 圏域市民の生涯学習への支援活動の拡充をめざします。また、地域の課題解決に向けたコミュニティーの再生や共助社会づくりをめざして、多様な人々に広く開かれた地域コミュニティーの交流拠点としての機能（中間支援機能＊６）強化をめざします。 | **幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出**<br>ソーシャル・インクルージョンをベースに、地域の課題解決やコミュニティーの再生を果たすべく、科学館が地域の交流拠点（コミュニケーション・プラットフォーム）となって、地域づくりに取り組む市民団体や研究機関などの活動を支援し地域づくり人材のサポートならびに育成へとつなげていきます。<br>幅広い年齢層が気軽に利用できる機会や学びの場の創出で、地域の方々が地域の価値にアクセスできる環境を市民とともにつくりあげていきます。今後は地域市民の代表である友の会会員とも「ともにつくりあげる」関係づくりも進めます。 |

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 重点戦略 | 事業概要 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。 | Ⅱ-2-1-（1） | ● | ボランティアの科学館事業への支援延人数 | ＊ | A | 3,000人以上<br>10人以上/1日<br>（開館日数300日） | 3,950人 | 4,425人 | 5,277人 | 5,131人<br>17人/１日 | 5,033人<br>17人/１日 | | | |
| | | ● | ボランティア主催事業回数 | ＊ | A | 12回以上<br>（1回／月）以上 | 14回 | 25回 | 33回 | 50回以上 | 50回以上 | | | |
| | | ● | ボランティアによるプログラム開発 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| 圏域市民の生涯学習に対する支援の拡充を図ります。科学館内だけでなく、地域との連携を図り、生涯学習の場と機会をつくり、コンテンツの提供を図ります。 | 主に<br>Ⅱ-2-1-（2） | ● | 市民活動支援事業 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 市民活動支援事業 | | D | | | | | A | A | | | |
| | | ● | 生涯学習に係わる事業への取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 生涯学習に係わる事業への取組 | | D | | | | | A | A | | | |
| 場づくりだけでなく、地域の多様な主体がつながるためのきっかけづくりや関係を深めるための交流事業を行います。 | | ● | 地域づくりのための交流事業の実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 地域づくりのための交流事業の実施 | | D | | | | | B | B | | | |
| コミュニティカフェを科学館に導入（平成29年3月17日事業開始）。新たな地域コミュニティーの交流の場・市民の社会参画の場として事業展開を図ります。 | | ● | カフェ利用者数（発券枚数による） | ＊ | A | | | | | 47,455人 | 51,198人 | | | |
| | | ● | カフェ利用者ならびにカフェ事業者の満足度 | ＊ | A | 測定時期要検討 | | | | | | | | |
| | 中期的な指標 | ■ | 生涯学習施設としての評価<br>指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 4.57 |
| | | ■ | 地域の交流拠点としての評価<br>指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 4.46 |
| | | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定量） | ＊ | E | | | | | | | | | 4.17 |
| | | ● | コミュニティカフェとしての実現度・有効性 | | F | 中期の指標とする | | | | | | | | |
| | | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| | ＜組合＞ | ● | ボランティアの満足度　→組合が中期的に検証 | ＊ | H | | | | | | | | | |
| | | ● | ボランティアの自己実現度・社会貢献度　→組合が中期的に検証 | ＊ | H | | | | | | | | | |
| | Ⅱ-3-1-（2） | ● | 友の会会員数（削除） | ＊ | A | 1,500人以上 | | | | | | | | |
| | | ● | 友の会市民モニター取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |

平均値：4.94

## 4. 評価結果（定性評価）

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果･成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | ボランティア活動は活発に行われていると共に、会としてほぼ独立した組織としての体制が整い自律的な運営がされている。指定管理者として必要最小限の支援を引き続き行うが、サポートの立場に留め、さらなる自立を促す。<br>指定管理運営開始以降に活動に加わられた方の新規プログラムと、ベースとなっている活動のバランスと内容が充実し、さらに活動が活性化し利用者から高評価を得ており、他施設からのボランティア活動に関する視察が増えている。<br>昨年度までの友の会の年間パスポート機能とメンバーシップ機能の分離に関し、年間パスポート購入数は友の会会員数の3倍以上に達し、しかもその2/3が圏域市民であり、圏域市民リピーター増＝圏域還元に大きく貢献できている。<br>逆にメンバーシップ入会者数は友の会会員数の1/3となっている。 | ボランティアの代表、執行部のスムースな代替わりがスタートし2年経過したが、意識の高い方と遠慮深い方の調整が課題。<br>ジュニアはやはり社会的ニーズの反映なのか50人と大幅増。<br>しかし経験豊富な先輩が指導するなど、いい方向に向かっており、きっちり育成し地域人の先導としたい。<br>メンバーシップに関して、大型映像試写会招待やプログラムの優先参加権は今後も継続するが、今後はさらにパイロットプログラムのモニター参加者としての位置づけを強化し、今まで以上に来館者ニーズに合ったプログラム開発に役立つ役割を担ってもらうことにより、館とメンバー両者に取り良い関係構築を進める。<br>またメンバーの適正人数を見極めていく。 | A | A | ボランティアの科学館事業への支援延人数や主催事業が50回以上という高い数値であること、自律的な運営を行っていることは大いに評価できる。<br>ボランティア活動自体は活発でA+と評価できるが、科学館側がボランティア活動の「支援」から「連携」に軸足を今年度から移したばかりで、十分な活動連携には至っていないため、今年度はA評価とする。<br>ジュニアボランティアの人数が増え、活発な活動が行われていることから、将来につながる地域との連結が生まれていることがうかがえる。<br>友の会制度を見直し、年間パスポートとメンバーシップ（ロクトメンバーズ）に分離したことによって、年間パスポート購入数が旧友の会会員数の3倍に達したこと、圏域割引を設けたことは、良い試みであったと思う。今後は、ロクトメンバーズへの加入数を増やすための方策を検討してほしい。<br>活動指針としてソーシャル・インクルージョンを掲げたことによる、これからの活動展開に大いに期待している。また、「地域のハブになる」という目標に対して、市民モニターの意見は非常に重要なので、そこで上がってきた問題点に今後も引き続き向き合い、事業計画などに反映してほしい。 |
| H30 | ボランティア活動は、その活動内容に高い評価を受け、外部の団体からも注目されている。<br>ボランティア会主導のプロジェクトも正月の昔遊び、イベントホール・科学学習室を使っての市民感謝デーでの科学実験ショー、学芸大学の科学の祭典への出展に加え、学校や公民館などへのアウトリーチ活動も数多く実施している。<br>また、ボランティア会主催で実施されている「たまろくサイエンスラボ」はほぼ月2回のペースで開催されており、ハイレベルな内容のものも多く毎回多数の応募があり、いつも満員の状況にある。<br>ジュニアボランティアについては、塗り絵を実質的に運営するなど先輩後輩のチームワークの良いコミュニケーションがみられる。<br>指定管理者としても、自主独立したボランティア会との協力関係は極めて良好な関係にあると考えている。<br>科学館事業の項でも記載したが、大人のための平日講座を拡大しており、シニアの生涯学習機会の提供で効果をあげつつあると共に、併せて子供向け、赤ちゃん向け、障がい者向けなどプログラムの多様化を進めた。 | ボランティア活動については、昨年から引き続き、役員互選の進捗が課題であるが、ともすれば避けがちな話し合いができつつあり、1か月交代などというボランティア活動にマッチングした具体案などがその話し合いの中から生まれていることは大きな前進である。本論に入り込んだ議論を進めることを期待したい。<br>また、ジュニアボランティアの中にリーダー的人材を意識的に育成したい。<br>学校利用向けの学習の手引きはあるが、シニア用の学習の手引きがあってもよい。<br>⑤ 財政計画・体制整備でも記載するが、「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」が文化庁からの助成事業として採択された。（平成31年度）<br>これにより来年度から漸く科学館が地域の交流拠点となり、ソーシャル・インクルージョンをベースに、地域の課題解決やコミュニティーの再生に着手できる経済的基盤が整った。 | A | A | **今年度事業の成果に対する評価**<br>ボランティアとの協働はすでに質・量とも高く持続していることは高く評価する。<br>また、オリンピック・パラリンピック以降、ますます重要になると思われる多文化共生やソーシャル・インクルージョン（社会包摂）の視点を持ち、文化庁の「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プログラム」助成事業の助成獲得に積極的に動いている点を高く評価する。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>ジュニアボランティアの活動を高く評価する一方で、応募者の減少が見られる点やボランティアの組織体制を強化することが今後の課題である。<br>ソーシャル・インクルージョンおよび地域のハブになるというコンセプトはすばらしいが実体化はまだこれからである。助成事業が採択されたことは、今後の地域拠点事業を推進する上で重要な寄与となると思われる。次なる展開に期待したい。 |
| R1 | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

| 第2次基本計画 | | | 指定管理者・事業計画 |
|---|---|---|---|
| 事業領域 | 事業目標-3 | 取組方針 | H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針 |
| 事業計画<br>**地域拠点事業** | **多摩六都の魅力発信**<br>多摩六都科学館は、地域資源の価値発信拠点です。さらに活動や場を介して、地域の様々な資源をつなぎ、新たな価値を市民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。 | ３カ年で地域連携や地域資源の価値発信は一気に加速し、圏域における拠点施設としての重要度も高まりました。次のステージでは、さらに地域の多様な主体と連携を図り、５市全域の地域資源の価値を学術的に掘り起こし、その価値を圏域内外に周知させていく発信機能の強化を図ります。これによって、圏域市民が地元に愛着と誇りを持ち、圏域外の人々が興味を持ち訪れたいと思える地域になることが最終目標です。 | **地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォームへと進化**<br>展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。<br>将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。 |

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 重点戦略 | 事業概要 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信していく活動を行います。 | 主に<br>Ⅱ-2-2<br><br>1科学館事業全体<br>2地域拠点事業全体 | ● | 地域資源をテーマとした企画展の開催 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 常設展示つながりスポットの充実 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 地域資源をテーマとした学習プログラムの開発 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 地域資源をテーマとしたイベントの実施 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 上記利用者・参加者の満足度（H29参考値：全体の満足度） | ＊ | C | 80%以上が満足 | | | | 89% | 89% | | | |
| 「地域づくり」の第一歩として、地域資源と圏域市民を「つなぐ・めぐる・知る」ための事業を行います。例えば、食・農・健康をテーマにしたローカルツアーや研究所や地元企業の見学会などが考えられます。 | | ● | 多摩地域の価値を見出せる事業の実施（定性） | | D | | | A | A | A+ | A | | | |
| | | ● | 科学教育のためのコンテンツやプロダクトなどの開発 | | B | 検討／実施 | 検討 | 検討 | 検討 | 実施 | 実施 | | | |
| こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。 | 組合との協働 | ● | 圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| 多摩六都圏域だけでなく、多摩地域全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。 | 中期的な指標 | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定量） | ＊ | E | | | | | | | | | 4.9 |
| | | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| 長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、地域産業の活性化も展望として掲げ、事業の展開を図ります。 | | ■ | 「地域資源を生かした運営」に対する評価<br>指標：地域の資源（自然・文化・ひと等）を生かした運営を実践する科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 4.94 |
| | | ● | プログラム公開に向けた取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |

平均値：4.94

**4. 評価結果（定性評価）**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | **今年度の取組結果･成果** | **課題・今後の取組方針** | **目標の達成状況** | **評定** | **総評（総括的な意見等）** |
| **H29** | 秋の企画展では、食とからだをテーマとし科学的観点からの食とからだの関係を展示すると共に、地域の農家と連携し、食と農への取組の展示や、特産品と直売所の紹介も実施した<br>春の企画展では構成5市を流れる川（小平市は玉川上水）をテーマに、それぞれの川を守っている自然保護市民団体と協力し、圏域内外の来館者にその文化歴史や自然の生態の魅力を紹介する展示を実施した。<br>東久留米市出身のアーティスト大小島真木さんに、全88のオリジナル星座絵を依頼、その絵をもとにプラネタリウム番組を作成し投影。シニアにも満足いただける内容であるため特に圏域からの集客に貢献し、６月の入館者数の記録を塗り替えた。<br>また、投影期間に合わせ、今年度からカフェを運営し地元野菜をふんだんに使ったメニューを提供している『六都なおきち』とのコラボレーションで『大人のカフェ＆シアター』キャンペーンを平日限定で実施し、これも好評を得た。 | 春の企画展・秋の企画展では今まで交流の無かった地域の農家の方や、地域の自然環境保護系市民団体の方とのつながりが広がった。<br>この自然環境保護系市民団体は、高齢化の悩みを共通に持っており、運動を切らさないための科学館としての対応として何ができるかを計画していく。<br>プラネタリウム番組で地域性を出すのは困難な中、昨年度の西武鉄道の車窓の風景や清瀬のひまわりに続き、今年度は下野谷遺跡との連携や圏域のアーティストと組むという手法で実現したのは大きい。今後も地域を題材としたプラネタリウム番組の作成を継続する。 | **A⁺** | **A⁺** | 企画展で地域資源の価値発信を積極的に行い、プラネタリウムのプログラム開発では圏域のアーティストと連携を図るなど、地域に軸足を置いて活動をしている点を大いに評価したい。また、科学と異分野をつなぐ活動や、自然環境保護系の市民団体との新たなつながりが生まれた点など、地域拠点としての役目を果たしていると思う。<br>今後は、さらにテーマの深掘りを学術的に推し進め、地域に密着した進化形の企画展なども開催してほしい。また、地域資源を科学的な観点から示す企画展にも挑戦してほしい（例えば、土壌の微量元素を測定し、圏域の農産物・果実の特徴を科学的に示す展示など）。 |
| **H30** | 昨年度から引き続き開催の春の企画展では、構成5市を流れる川をテーマとした展示を行い、夏の企画展＜鉄道展2018＞では「 駅からみえるまち・ひと・技術」というテーマで、鉄道を技術面だけでなく、鉄道の発展と共にある地域の発展とそこに住む人々という視点からも深耕できた。<br>第2次基本計画も残すところ5年となったが、スタッフの意識にも地域づくりの定着が見られ、圏域の環境自然地図が頭の中に描かれつつある。西武鉄道、シチズン、グローブライド、情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）などとの連携を参考に、行政や圏域の商工会との連携も「市民感謝ウィーク」を機に進みつつあり、地域のハブ化が具体的に進んだ。<br>連携協定締結の東大生態調和農学機構、行政、市民、科学館の連携で運営されている「農と食の体験塾」も5年目となり、今年は市民の主導で25回の教室開催となり、事業計画の基本方針にある「自分の科学館/地域の科学館」という意味での『Of the people』が実現したことは大きい。 | 企画展に関わったスタッフや日頃圏域市民との関係が深いスタッフと同レベル程度に、すべてのスタッフが具体的に圏域イメージ形成を進めたい。<br>東大大豆塾での塾生とスタッフの関係形成も進み、オープンサイエンスの基盤となるコミュニケーションの深耕をさらに進めたい。 | **A** | **A⁺** | **今年度事業の成果に対する評価**<br>行政や圏域の商工会等との連携による「市民感謝ウィーク」の実施により、「地域のハブ化」が進んでいること、圏域市民に対するサービス拡充につながる良い企画であることを評価したい。このような取り組みを通じて、組合から指定管理者へのガバナンスが機能していることがうかがえる。<br>また、「農と食の体験塾」が５年継続し、発展がみられることから地域のハブとなる活動が積極的に行われている点を高く評価する。圏域企業との連携深化とともに、その協働によりスタッフの意識に「地域づくり」の定着が見られ、「圏域イメージ」が形成されつつあること、地域密着型の企画展を充実させ地域とのつながりを深めたことを高く評価したい。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>今後は、すべてのスタッフが同様に「圏域イメージ」を具体的に形成できることを願っている。 |
| **R1** | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

| 第2次基本計画 | | | 指定管理者・事業計画 |
|---|---|---|---|
| 事業領域 | 事業目標-4 | 取組方針 | H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針 |
| 経営計画<br>**マーケティング** | **愛着の持てるロクトへ**<br>多摩六都科学館は、圏域市民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となります。 | 圏域市民の認知度・利用度・満足度のアップをさらにめざします。長期的には、圏域市民の科学館に対する価値観を高めることをめざします。<br>多摩六都科学館が推進している取組方針を圏域市民に理解してもらえる機会や接点を作り、社会とのよりよい関係づくり（パブリック・リレーションズ機能）の強化を図ります。 | **「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメントによるマーケティングの展開**<br>コミュニケーションを重視した「ＤＯ！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識してタイムリーな広報・ＰＲ活動を行います。<br>今後も、アテンドや広報スタッフだけでなく、一人一人のスタッフが「利用者中心」に一元化したマーケティング発想をもとにした事業展開が可能となるマーケティングマネジメントを行います。 |

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 重点戦略 | 事業概要 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。 | Ⅱ-3-2 | ● | 利用者の満足度（全体・総合的な満足度） | ＊ | C | 80%以上を維持 | 88.8% | 89.8% | 83.8% | 89.4% | 88.6% | | | |
| 市民や利用者の声を長期的に反映させるしくみ、ダイレクトに運営側に取り込めるしくみとして、市民モニター制度などの拡充を図ります。 | 組合との協働 | ● | 市民モニター制度の実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | Ⅱ-3全体 | ● | ロクトメンバーズやクラブ会員、ボランティアによるモニタリングの実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| 多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることや今後の取組方針を周知し、理解者・賛同者を増やしていく活動を積極的に展開します。 | | ● | 科学館の取組周知活動の実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| これまで同様、利用者向けのマーケティング戦略も重視する一方、今後は未利用者向けや地域づくりに携わっている圏域市民向けの対応策も検討します。また、事業ターゲットを想定した圏域市民の年代別人口構成の分析なども行います。 | | ● | マーケティング戦略の作成 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 未利用者への利用促進策の実施 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | ● | 未利用者への利用促進策の実施 | | D | | | | | B | A | | | |
| 広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果を分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。 | | ● | 広報戦略の策定 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| 組合の主導のもとアクセスの利便性を高め、さらに改善を図るために、バス運行の導入を検討します。 | Ⅱ-3全体 | ● | アクセス改善・交通の便改善に向けた取組（協力） | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| 障がいのある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいインクルーシブな（包括的な）ソフト・ハードの整備を図ります。 | Ⅱ-3全体 | ● | 誰もが利用しやすい事業の実施（定性評価）<br>ソーシャル・インクルージョンの観点から | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | 中期的な指標 | ■ | 「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ３年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。 | ＊ | E | | | | | | | | | 5.8 |
| | | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価<br>指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 5.48 |
| | | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価 | | F | | | | | | | | | A+ |
| | ＜組合＞ | ■ | 「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価 | ＊ | E | | | | | | | | | |
| | | ● | 圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度 | ＊ | E | | | | | | | | | |
| | 組合との協働 | ● | 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |

平均値：4.94

**4. 評価結果（定性評価）**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果・成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | 小学校４年生向け学習投影に、東久留米市の小学校だけが全校利用となっていなかったが、平成27年度3校、平成28年度2校の未利用が、今年度漸く全校利用となった。地道に校長会などでの案内を継続した事や、館自体の認知度の向上によるものと考えている。<br>来年度の学習投影にも圏域内のすべての小学校が引き続き利用してもらうと共に、圏域外からの小学校の利用拡大をめざし、『学習利用の手引き』を分かりやすく且つ利用意欲が高まるような内容にリニューアルし配布した。<br>昨年度の課題として記載したシニアキャンペーンに替わる新たなキャンペーンとして、「大人のカフェ＆シアター」（③ 地域拠点事業-2に記載）を企画し、新聞折込などの広報を実施し大きな効果が上げられた。<br>運営連絡協議会は秋の企画展と並行して『北多摩の農と食』をテーマに開催し、メンバーには地域の農家の方々にも加わって頂き、平成30年度末を目標に科学館として北多摩の農と食の魅力を如何に発信していけるかの検討をスタートさせた。 | 来館者に対する直接の声掛けによるアンケートと、来館者の年代をチケット発券時にデータ化し、来館者情報の正確な把握は継続しており、それらの情報を基に、開催するイベントのタイムリーな広報は引き続き継続する。<br>しかしながら日曜祝日はこれ以上の利用者の増加は館のキャパシティ的に難しくなってきており、今後は平日利用が可能な世代を中心とした未利用者向け広報を拡大していく。<br>学校利用をさらに充実させるための一環としてリニューアルした『学習利用の手引き』を手掛かりに学校での学びに深くかかわれるような利用手法を開発する。<br>運営連絡協議会ではテーマ『北多摩の農と食』を魅力発信に留まらずオリジナル商品開発レベルに高めることが今後の課題。 | A+ | A+ | 学習投影が圏域全校利用となった点や、「大人のカフェ＆シアター」などの企画が成功しているのも、マーケティング活動の成果と考えられる。<br>また、圏域内の小学校の継続利用と圏域外の小学校の利用拡大をめざし、『学習の手引き』をリニューアルし、学習利用の質を高めるだけでなく、新たな利用者層の獲得に努力している点も高評価である。<br>さまざまなメディアを通してマスとローカル両面から広報活動が多様に行われている点は継続しながらも、今後は未利用者を利用者へと変えるアプローチをさらに進めていただきたい。 |
| H30 | 圏域市からの要望の高かった「市民感謝ウィーク」を今年度からスタートし、産業振興にも道を開いた。地域づくりに欠かせない、圏域行政の広報部門・産業振興課そして商工会との連携が本事業で深まった。<br>学校利用をさらに充実させるためリニューアルした『学習利用の手引き』を手掛かりに、下見のための実地踏査ツアーの実施で教師の活用レベルの向上を図り、成果が上がりつつある。学校での学びに深くかかわれるような利用手法を開発中である。<br>運営連絡協議会においては、近隣農家の秋田農園をハブにした圏域の地に足が付いた実質的な協議会運営が具体化し、継続的に参加者相互で協議会を育てる事ができている。<br>「ロクトニュース」が創刊100号を迎えるに当り、全面リニューアルを行い2月に発行した。従来年間5回発行していたが、今後は年間6回の発行とした。またリニューアルに合わせ、毎月発行していた「催し物案内」と「ロクトニュース」で内容が重複している部分があったため、これらを統合し、より分かりやすくかつ合理化を図った。 | 「市民感謝ウィーク」は現状では顕著な集客や産業振興にはつながってはいないが、継続し認知を深めることが重要と考えており、来年度は認知を高める広報活動を展開する計画である。<br>学校利用はプラネタリウムでの理科（星の動き）の学習投影が中心となっているが、展示室にも目を向けさせ、科学リテラシーと地域リテラシーのバランスの取れた学習利用を進行していきたい。<br>運営連絡協議会は来年度も地域の農と食をテーマとし、メンバーもほぼ継続して活動してくれることになったので、より具体的な成果を出していきたいと考えている。<br>昨年の秋の企画展「北多摩の食と農　～今晩何食べる～」から始まった圏域農家との連携が、顔が見える関係となり、徐々に実を結びつつある。じっくり具体化していきたい。 | A | A | **今年度事業の成果に対する評価**<br>「市民感謝ウィーク」を実施し、行政との連携も始まった点や圏域の未利用者への来館動機を高める工夫を行った点、さらにシャトルバス運行によりアクセスの改善を図った点を高く評価する。<br>また、「学習利用の手引き」や「ロクトニュース」のリニューアルは時機を得たもので、選択と集中による広報物の合理化を図る取り組みも評価できる。<br>声かけアンケートとチケット販売時の年齢把握などをデータ化し、それをもとに企画を考えるなどマーケティングの流れができつつある点も評価したい。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>学校利用の促進を図るため、教員への働きかけを継続して行うとともに、新小学１年生のみではなく新中学１年生への招待券配布を検討するなど新たな顧客にアプローチするルート開発に取り組まれることを望む。<br>また、潜在ニーズを掘り起こすマーケティングの方法についても積極的に取り組み、さらなる利用促進につながるよう、充実した事業展開を図ってほしい。 |
| R1 | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

| 第2次基本計画 | | | 指定管理者・事業計画 |
|---|---|---|---|
| 事業領域 | 事業目標-5 | 取組方針 | H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針 |
| 経営計画<br>**財政計画・体制整備** | **持続可能なしくみづくりを**<br>多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や協働体制を立案実行し、地域貢献できる施設として持続可能な発展をめざします。 | 今後も持続可能な成長・発展ができるよう、ハードだけでなくソフトの質的充実を図ります。そのために、組合・指定管理者・支援者がそれぞれの立場で、財源の確保や体制整備に取り組んでいきます。 | **顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備**<br>企画展の成果物を常設展示に活用できるよう、的確な予算計画を練り上げ、実施します。また、多摩・島しょ広域連携活動助成金などの公的助成金により、新たなプログラムの開発に取り組みます。<br>顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、面談方式による人事評価を導入し、スタッフの育成を図り、体制整備を進めます。また、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ、進めていきます。 |

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| | 重点戦略 | 事業概要 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ● | 今後、科学館の取り組むべき基本事業に地域拠点事業を加えることとします。 | ＜組合＞ | ● | 地域拠点事業推進状況のモニタリングならびに検証 | | | | | | | | | | | |
| ● | 負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など）を検討します。 | Ⅲ収支 | ● | 助成金獲得に向けた取組 | | B | 検討／実施 | 検討 | 検討 | 検討 | 検討 | 実施 | | | |
| | | | ● | 外部資金の導入策・活用策の検討・実施 | | B | 検討／実施 | 検討 | 検討 | 実施 | 検討 | 検討 | | | |
| ● | 地域連携・協働体制は、組合・指定管理者などそれぞれの立場で、 共ににつくりあげていくしくみの強化を図っていきます。 | ＜組合＞ | ● | 人的ネットワーク充実に向けた取組 | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | Ⅰ-3-2等<br>事業全般 | ● | 人的ネットワーク充実に向けた取組 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | 人的ネットワーク充実に向けた取組　（当面は自己評価のみに変更） | | D | | | | | | | | | |
| | | | ● | 将来的な体制整備の検討 | | B | 検討／実施 | 検討 | 検討 | 検討 | 実施 | 実施 | | | |
| | | | | プログラム開発に向けた市民参画型の取組 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| ● | 施設・設備の老朽化と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します。 | ＜組合＞ | ● | 財政計画の検証・改訂 | | | | | | | | | | | |
| | | | ● | 施設の長寿命化計画の検証ならびに作成 | | | | | | | | | | | |
| | | 主にⅡ-1-2 | ● | 効率的・効果的な事業サイクルへの取組 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| ● | 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。 | Ⅱ-1全体<br>Ⅱ-2全体 | ● | プログラム開発の継続性・有効性（PDCA・企画管理等） | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施 | | D | | | | | A+ | A+ | | | |
| | | | | 優秀な人材の確保および育成（研究者・学芸員の充実） | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | 中期的な指標 | ■ | 持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | A+ |

**4. 評価結果（定性評価）**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | **今年度の取組結果･成果** | **課題・今後の取組方針** | **目標の達成状況** | **評定** | **総評（総括的な意見等）** |
| **H29** | 第1期の指定管理運営開始以降、ロボットパークを除く企画展は、すべて館スタッフで企画・設計・製作を行っており、館スタッフの企画力や業務に対する意識は飛躍的向上を見せている。<br>2020年度から小学校でのプログラミング教育が始まるため、科学館として今後プログラミングに関する教室は必須と考えており、プログラミング教室開催用機材を揃えた。<br>2020年度に向け、より利用者サービスの向上(特にアウトリーチの充実など)を図るため、天文グループの人員増を含め常勤スタッフを3人増員する。 | 集客の両輪であるプラネタリウムの生解説とラボでの実感を伴った体験(観察・実験・工作)について、再度各スタッフ一人一人のスキルの棚卸を実施し自己スキルの魅力を確認の上、さらなるレベルアップをめざす。具体的にはアクティブラーニングの思想＝主体的・対話的で深い学びがあり、これまでの経過の中でかなりのレベルで達成されていることを個々が認識することがベースになる。<br>日曜祝日などは利用者数は館の物理的限界に近くなっており、これ以上の利用者数の大幅増は見込めず、利用料金収入の伸びが頭打ちとなることが予想される中で人件費が増えることになるが、平日や土曜の来館者増の施策を取ると共に、業務の効率化による残業の削減を進めていく。 | **A** | **A⁺** | プログラミング教室開催用機材を拡充したり、利用者サービスの向上に向けてスタッフを増員したりと、事業予算の枠組みの中、最大限の努力に努めていると思う。<br>また、企画展を自前で実施し、自己研鑽プログラムの充実などにより、スタッフの力は確実に向上している。引き続き能力向上プログラムを充実させ、体制の強化につなげてほしい。<br>スタッフの企画力ならびに業務に対する意識の向上は大いに評価できる。 |
| **H30** | 第1期の指定管理運営開始（2012年度）以降、内製の企画展により、スタッフのスキルアップと効率的な経営を実現できている。結果プログラミング学習用機材の確保などの投資が可能になり、圏域ニーズに応えることが実現している。<br>これはプラネタリウムでも同様で、生解説のコンテンツ内作によってタイムリーな企画展開で集客力を維持できている。<br>長年の懸案であった助成金の獲得や外部資金の導入に関しては、平成31年度文化芸術振興費補助金「地域と協働した博物館創造活動支援事業」に「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」で応募し採択された。 | プラネタリウムの生解説とラボでの実感を伴った体験について、各スタッフ一人一人のスキルの自己点検を実施し、常設展示と自己スキルの魅力を確認の上、コンテンツの充実をめざす。具体的には「アクティブラーニングの思想」＝「主体的かつ対話的で深い学び」を基本に再認識することがベースとなる。<br>これ以上の大幅な利用者数の増加が見込めない状況で、スタッフが安心して働ける環境を整えるには、業務の効率化だけではなく収益構造の改革も必要であり、企画展コンテンツやプラネタリウム番組の他館利用や自主事業の拡大などで収益を上げることなどの検討を開始する。<br>オリンピックやコンビニエンスストアなど人手不足が深刻であるなか、優秀な人材の確保のため処遇改善を検討する。 | **A** | **A** | **今年度事業の成果に対する評価**<br>安定した来館者数を確保していることに加え、助成金や補助金といった外部資金の獲得に積極的に取り組んでいることを評価する。<br>限られた経営資源を最大限有効に活用することが重要であり、スタッフ一人一人の能力向上やプログラミング教室の機材に投下することは効果的である。今後も総花的ではなく、効果の高いものに集中してほしい。<br>また、スタッフのレベルアップにより企画展やプラネタリウム番組の内製化が進み、経費削減と共にタイムリーな企画展開が可能になった組織力を高く評価する。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>業務の効率化と収益構造の改革、自主事業の拡大などを進め、今後流動的になると予想される人材の獲得・確保に注力することを期待したい。<br>他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成は、市民モニターによる定性評価においても高い評価を得ているが、さらなる連携強化に取り組んでほしい。 |
| **R1** | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針（科学館事業　2頁参照）

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 事業領域 | | 重点戦略 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目 | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科学館事業（中核事業） | ● | 専門性とエンジョイメントを基本とし見通しを持った体験による実感を伴った理解とコミュニケーションを重視した、探求的で主体的な学びとなる事業を行います。 | | 乃村 | | | | | | | | | | | |
| | ● | ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが分け隔てなく参加して楽しめるよう、子どもだけでなく、高齢者も障がいのある方も、すべての人々がともに楽しみながら学べる場と機会の創造に努めます。 | ● | ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組 | | D | | | | | B | A | | | |
| | ● | 展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。特に東京の自然史（地域資源）を重要テーマと位置づけます。 | | 乃村 | | | | | | | | | | | |
| | ● | 多様なテーマ（健康・食・芸術など）を科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。様々な利用者層に合わせたプログラムで、科学への興味を引き出す場をつくりだします。 | ● | 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的） | | D | | 検討 | A+ | A+ | A+ | A+ | | | |
| | | | ● | 行政への働きかけや体制整備に向けての取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | ● | 館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。特に来館しづらい環境にある学校に対してアウトリーチ活動を行っていきます。 | ● | 乃村<br>業務基準書改訂に向けた検証（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | ● | 市民や機関と連携を図り、圏域内に科学教育の場が拡がっていくことも視野に入れて事業展開を図ります。 | ● | 圏域内でのアウトリーチ活動の推進 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ■ | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量）（削除） | ＊ | E | | | | | | | | | 5.49 |
| | | | ■ | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）（削除） | | F | | | | | | | | | A |
| | | | ■ | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定量）<br>指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につき、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 4.99 |
| | | 中期的な指標 | ■ | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| | | | ■ | 科学の担い手の育成（定性） | | F | | | | | | | | | A+ |
| | | | ■ | 継続的なユーザーの評価（元ジュニアボランティア、友の会） | | G | | | | | | | | | |
| | | | ■ | 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか（定性） | | F | | | | | | | | | A+ |

平均値：4.94

## 1. 事業目標ならびに事業方針（地域拠点事業　5頁、8頁参照）

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 事業領域 | | 重点戦略 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目 | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **地域拠点事業**<br>多摩六都の交流拠点 | ● | 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。 | ● | 事業評価における市民モニターの導入実施（マーケに移動） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | | ■ | ボランティア活動の成果を発信 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 圏域市民の生涯学習に対する支援の拡充を図ります。科学館内だけでなく、地域との連携を図り、生涯学習の場と機会をつくり、コンテンツの提供を図ります。 | ● | 貸出の需要、ルールなどの検討（削除） | | B | 検討／実施 | | 検討 | 検討 | | | | | |
| | | | ● | 市民活動支援事業 | | D | | | | | A | A | | | |
| | | | ● | 生涯学習に係わる事業への取組 | | D | | | | | A | A | | | |
| | ● | 場づくりだけでなく、地域の多様な主体がつながるためのきっかけづくりや関係を深めるための交流事業を行います。 | ● | 地域づくりのための交流事業の実施 | | D | | | | | B | B | | | |
| | ● | コミュニティカフェを科学館に導入（平成29年3月17日事業開始）。新たな地域コミュニティーの交流の場・市民の社会参画の場として事業展開を図ります。 | ● | 中期の指標あるいは定性指標：コミュニティカフェの導入によって、新たな地域コミュニティの交流・社会参画の場としてき機能しているか | | D | 中期の指標に変更★ | | | | ／ | | | | |
| | ● | 科学館をもっと気軽に利用してもらえるよう、無料ゾーン・有料ゾーンの設定を変更し、無料ゾーンの充実を図ります。 | ● | 施設構成および改修計画の検討（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | 中期的な指標 | ■ | 生涯学習施設としての評価<br>指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館 | * | E | | | | | | | | | 4.57 |
| | | | ■ | 地域の交流拠点としての評価<br>指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館 | * | E | | | | | | | | | 4.46 |
| | | | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価 | * | E | | | | | | | | | 4.17 |
| | | | ■ | ボランティアの満足度　→組合が中期的に検証 | * | H | | | | | | | | | |
| | | | ■ | ボランティアの自己実現度・社会貢献度 | * | H | | | | | | | | | |
| | | | ■ | コミュニティカフェとしての実現度・有効性 | | F | 中期に変更 | | | | | | | | |
| | | | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価 | | F | | | | | | | | | A |
| 多摩六都の魅力発信 | ● | 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信していく活動を行います。 | ● | 多摩地域の価値を見出せる事業の実施（定性） | | D | | 検討 | A | A | A+ | A | | | |
| | | 地域づくり」の第一歩として、地域資源と圏域市民を「つなぐ・めぐる・知る」ための事業を行います。例えば、食・農・健康をテーマにしたローカルツアーや研究所や地元企業の見学会などが考えられます。 | | 協働体制の整備（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | | | データベース整備に関する検討（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | ● | こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。 | ● | 圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | 長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、地域産業の活性化も展望として掲げ、事業の展開を図ります。 | | 長期的な観点を持って取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | 地域の学術機関や地域産業との連携を深め、協働で多摩六都圏域の特徴を基にした「地域づくり」事業の推進を図ります。 | | 業務基準書の改訂（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | 多摩六都圏域だけでなく、多摩地域全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。（中期的な取組→中期的な指標） | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定量） | * | E | | | | | | | | | 4.9 |
| | | | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| | | 長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、新たな産業創出も展望として掲げ、事業の展開を図ります。（中期的な取組→中期的な指標） | ■ | 「地域資源を生かした運営」に対する評価<br>指標：地域の資源（自然・文化・ひと等）を生かした運営を実践する科学館 | * | E | | | | | | | | | 4.94 |

平均値：4.94

**4. 評価結果（定性評価）**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果･成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | 市民モニターの活動は、継続的な視点で定性的な評価を得るのみならず、圏域市民と運営者が直接意見や情報の交換を行う場を作りだし、相互理解に寄与している。<br>圏域内のサテライトや施設貸出しの課題については、構成市の公共施設管理計画の動向も参照しつつ、施設の基本構想や設置理念との整合性を考慮して実現性について再検討したい。 | 市民モニターの継続が難しい方もいるので、新たなメンバーの募集が課題。<br>圏域内のサテライトや施設貸出しを検討する際には、使用料の収受が可能か、それにより実効性の高い収支が図れるかなど、経済性の観点から困難が指摘されている。<br>地域のニーズに合わせていくには、アウトリーチ活動（出張事業など）に注力した方が持続的な活動とすることができるものと思われる。 | A | A | 市民モニターの意見聴取は、科学館の事業推進や評価活動においても非常に重要なので今後も継続してほしいが、科学館が取り組んでいる市民モニター制度に対する圏域市民の認知度が低いように感じる。この点を改善できるよう努力が必要。また、市民モニター活動の中にこれからの科学館を支える若者層（大学生・高校生）をもっと巻き込んでいくべきだと思う。<br>ソーシャル・インクルージョンに関する取り組みは、圏域のさまざまな主体と協力しながら、地域にある課題を研究し、ターゲットを明確にした上で具体的な策を検討していただきたい。 |
| H30 | 地域資源の価値発信機能の強化を図るため、今年度より圏域構成五市ごとの「市民感謝ウィーク」を実施した。この活動を通して、従来の「圏域市民感謝デー」における地域の産業の価値発信に加えて、自然、文化、歴史などの地域資源についても新たに各市との連携により圏域内外に対して圏域の魅力を発信することができた。<br>「圏域市民感謝デー」の実施などを通じて、市民をつなぐハブとしての科学館事業の取り組みを実施している。 | 圏域構成市ごとの「市民感謝ウィーク」を５月から１月までの奇数月に実施したため、対象圏域市民の利用に際して若干季節的な影響を受ける時期も見受けられた。実施時期については、地域資源の適切な発信時期も踏まえて、より効果的な事業に発展するよう指定管理者とともに取り組んでいきたい。<br>継続的に実施している「市民感謝デー」については、地域の産業を後押しし、圏域を盛り上げる事業として定着しているが、組合と指定管理者との連携体制や指定管理料中の当該予算の規模についての課題がある。 | A | A | **今年度事業の成果に対する評価**<br>従来の「市民感謝デー」に加え、圏域五市ごとの「市民感謝ウィーク」を実施したことにより、圏域市民の利用促進と情報発信を強化し、さらに圏域との連携を強め、自分たちの科学館という意識を市民間に醸成できていることを評価したい。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>「市民感謝デー」は地域のイベントとして定着しつつも、さらなる来場者増加を望むことは難しいので、今後は内容の工夫をする必要性を感じる。また「市民感謝ウィーク」については、今後は地域の特性や季節的な要因についても考慮し、より効果的な取り組みとなるよう定着させる工夫をしてほしい。<br>生涯学習プログラムは市民モニターによる定性評価で高評価ではあるが、幅広い年代に向けた学習機会の実施と周知の方法についてさらに検討を加え、今後も力を入れて取り組んでほしい。<br>ソーシャル・インクルージョンの試みについては、少しずつ進展している点は良いことであるが、今後はアウトリーチ活動の充実も含めてソーシャル・インクルージョンの考え方を実質化することを最優先課題として取り組んでほしい。 |
| R1 | | | | | |

## 1. 事業目標ならびに事業方針 （10頁、13頁参照）

## 2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

## 3. 評価結果・指標の実績結果

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連　↓別表参照

| 事業領域 | | 重点戦略 | | 業績指標 | 定量 | 検証方法 | 中期目標（目 | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| マーケティング | ● | 利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。 | ● | 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | ● | 市民や利用者の声を長期的に反映させるしくみ、ダイレクトに運営側に取り込めるしくみとして、市民モニター制度などの拡充を図ります。 | ● | 市民モニター制度の実施（移動） | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることや今後の取組方針を周知し、理解者・賛同者を増やしていく活動を積極的に展開します。 | ● | 科学館の取組周知活動の実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | これまで同様、利用者向けのマーケティング戦略も重視する一方、今後は未利用者向けや地域づくりに携わっている圏域市民向けの対応策も検討します。また、事業ターゲットを想定した圏域市民の年代別人口構成の分析なども行います。 | ● | 未利用者への利用促進策の実施 | | D | | | | | B | A | | | |
| | ● | 広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果を分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。 | | 乃村（POSデータ・地域性や年齢別に分析） | | | | | | | | | | | |
| | ● | 組合の主導のもとアクセスの利便性を高め、さらにアクセスの改善を図るために、バス運行の導入を検討します。 | ● | 交通の便を改善し利用しやすい科学館への取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 障がいのある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいインクルーシブな（包括的な）ソフト・ハードの整備を図ります。 | ● | 誰もが利用しやすい事業の実施（定性評価）<br>ソーシャル・インクルージョンの観点から | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 館名のわかりづらさは、愛称やキャッチコピー、VI（ヴィジュアル･アイデンティティー）等を導入し、コミュニケーション計画の改善を図ります。 | ● | 将来展望の検討（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | 中期的な指標 | ● | 圏域市民の科学館の認知度 | ＊ | E | | | | | | | | | 91.9% |
| | | | ● | 圏域市民の科学館の利用度（全体・未認知者も含む） | ＊ | E | | | | | | | | | 67.2% |
| | | | ● | 圏域市民の利用時の満足度（満足＋どちらかと言えば満足の割合） | ＊ | E | | | | | | | | | 92.6% |
| | | | ■ | 「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ３年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。 | ＊ | E | | | | | | | | | 5.8 |
| | | | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価＊<br>指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 5.48 |
| | | | ■ | 「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価 | ＊ | E | | | | | | | | | 3.94 |
| | | | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価 | | F | | | | | | | | | |
| 財政計画<br>体制整備 | ● | 今後、科学館の取り組むべき基本事業に地域拠点事業を加えることとします。 | ● | 地域拠点事業推進状況のモニタリングならびに検証 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など）を検討します。 | ● | ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業の継続実施 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 地域連携・協働体制は、組合・指定管理者などそれぞれの立場で、共につくりあげていくしくみの強化を図っていきます。 | ● | 乃村　人的ネットワーク充実に向けた取組（試行後、削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |
| | | | ● | 人的ネットワーク充実に向けた取組 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | 人的ネットワーク充実に向けた取組（試行後、削除） | | D | | | | | | | | | |
| | ● | 施設・設備の老朽化対策と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します | ● | 財政計画の検証・改訂 | | B | 検討／実施 | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | | | ● | 施設の長寿命化計画の検証ならびに作成 | | B | 検討／実施 | 検討 | 実施 | 検討 | 検討 | 検討 | | | |
| | ● | 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。 | ● | 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施 | | D | | | | | A+ | A+ | | | |
| | | 中期的な指標 | ■ | 持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価） | | F | | | | | | | | | A+ |
| | ● | 駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。 | ● | 緑環境に配慮した駐車場の整備（削除） | | B | 検討／実施 | | | | | | | | |

平均値：4.94

**4. 評価結果（定性評価）**

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果･成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | H28のはなバスの花小金井駅乗り入れにより、科学館へのバス利用便は大きく向上した。<br>ネーミングライツに関心を持つ事業者の調査として、組合指定金融機関の法人営業部担当者に依頼をしている。<br>財政計画の改定（平成30年度）に合わせて、長期修繕計画作成業務を平成30年度予算編成で計上し、実行性の高い施設の長寿命化に取り組む。 | アクセス対策では、東久留米市と西東京市にまたがる都市計画道路の開通に伴い、科学館経由の路線の検討について路線バス運行会社と情報交換を行った。今後、具体的な検討にまで着手できるか、継続的な働きかけが必要である。<br>施設の維持補修経費に係る組合の財政状況が非常に厳しいことが大きな課題である。今後、構成市とも相談し、組合の財政を適正に保つよう努めていく。 | A | A | 駐車場整備、はなバスルート変更（花小金井駅への乗り入れ）が定着し、来館者数も２４万人台を確保していることは高評価である。公共交通機関のアクセス改善は非常に大変なことで、継続的に取り組まないと実現できない。それを実現した点は大いに評価できる。また、さらなるアクセス改善に取り組んでいる姿勢も評価したい。<br>施設の老朽化対策は、現前の大きな課題である。組合は長期修繕計画策定を確実に進めていく必要があるが、施設の維持補修は組合だけでは実現できるものではない。引き続き、構成市の理解を得る努力を続けてほしい。<br>昨今では、正月休みにミュージアムが開館している事例も見られるようになった。多摩六都科学館でも、圏域市民の利用サービスの一環として正月休み期間中に1日でも開館できるか検討してほしい。 |
| **H30** | 市民モニター制度については、開催されている意見交換会が市民モニター・指定管理者・組合の三者が課題や改善策をその場で協議することによって迅速な業務改善への契機となっている。<br>「圏域市民感謝ウィーク」は、「圏域市民感謝デー」同様に各市の主要駅より休日のみシャトルバスを運行し、圏域市民の交通アクセスの改善に指定管理者と協力して取り組んだ。<br>ネーミングライツについては、昨年度依頼していたことが進展し、民間事業者１社と面談を行うまでに至った。<br>財政計画については、平成31年度からの新たな計画期間のものを策定し、施設の老朽化に係る大型空調設備の更新（令和6年度予定）に対応するものとなっている。 | 現在の組合財政の厳しい状況などを構成市にご理解いただき、平成31年度より構成市負担金を増額させていただくことができた。前回の財政計画の運用において、計画期間中における歳出及び基金残高実績が大幅に乖離してしまったことを反省して、今後は財政規律の確保に努めていく。<br>これからも施設の老朽化が加速度的に進行することを考慮すると、より多くの財政出動が強いられることが予測されることからネーミングライツなどの外部資金調達も含めて、自主財源の確保に係る制度確立に向けた準備を進めていく。 | **A** | **A** | **今年度事業の成果に対する評価**<br>構成市の負担金を増額できたことは大きな成果であり、これは設備の老朽化対策の必要性に加え、科学館の活動の成果が構成市に認められたものといえよう。また、市民モニターの活用が組織的・継続的に行われ、進展してきている点は評価したい。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>中長期的な施設の老朽化対策は大きな課題だが、指定管理者の協力を得ながら計画を進めてほしい。また、ネーミングライツの検討にあたっては、来館者や未利用者を含めた広範囲の意見を聞いた上で進めるべきだと思う。<br>市民感謝デー等に見られるシャトルバス運行は、アクセスの改善とともに利用機会の提供として重要である。引き続き、アクセス改善に取り組んでほしい。<br>市民モニターから出ている意見に対しては、取り組むべき課題の優先度を見極めた上で改善につなげてほしい。 |
| **R1** | | | | | |

## 1. 長期的な事業目標ならびに事業方針

**第2次基本計画**

**使命**

多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える**多様な「学びの場」をつくり**あげていきます。
そして、多摩六都科学館は、活動の幅を拡げ、皆さんをつなぎ、「**地域づくり」に貢献する**ことをめざします。

**活動理念**

科学でつながる
ともにつくりあげる
多摩六都科学館

**指定管理者・事業計画**

**H29年度～H31年度（中期）事業の基本方針**

多摩六都科学館第2次基本計画の使命『多様な学びの場』の創出と『地域づくり』をめざし、活動の基本方針を引き続き「ＤＯ！サイエンス」とします。利用者が主体的・対話的で深い学びをめざし、スタッフとともに「科学する」を実践できる場と機会の創出をめざします。
「市民の科学館＝Science Center of the people」を到達点とし、事業展開します。

## 2. 重点的な業績指標（KPI）　3. 評価結果・実績値（定量評価・定性評価）

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所　セル黄色：市民モニター関連

| 評価軸 | | 重点的な業績指標（Key Performance Indicators, KPI） | | 検証方法 | 中期目標（目標値） | 前中期 H26 実測値 | 前中期 H27 実測値 | 前中期 H28 実測値 | 今中期 H29 実測値 | 今中期 H30 実測値 | 今中期 R1 実測値 | 中期3カ年 実測値 | H28調査 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用状況・経営状況 | ● | 利用者数 | ＊ | A | 年間21.5万人をキープ | 206,076人 | 237,707人 | 253,471人 | 243,775人 | 244,436人 | | | |
| | ● | 利用料金収入（事業収支） | ＊ | A | 最低1億円を目標とする | 117,600千円 | 134,327千円 | 139,809千円 | 134,628千円 | 133,097千円 | | | |
| | ● | 利用料金比率（利用料金収入／全収入） | ＊ | A | 25%以上 | 28.9% | 31.7% | 32.2% | 32.8% | 32.5% | | | |
| | ● | 外部委託費比率（外部委託費合計／全支出） | ＊ | A | 20%以下 | 15.1% | 14.9% | 14.6% | 14.6% | 14.5% | | | |
| | ● | 利用者当たり管理コスト（全支出／利用者数） | ＊ | A | 2,000円以下 | 1,898円 | 1,675円 | 1,628円 | 1,704円 | 1,709円 | | | |
| | ● | 利用者当たり組合負担コスト（指定管理料／利用者数） | ＊ | A | 1,500円以下 | 1,321円 | 1,145円 | 1,074円 | 1,117円 | 1,114円 | | | |
| 直接的な事業効果 | ● | 利用者・参加者の満足度（総合的な満足度） | ＊ | C | 80%以上が満足 | 88.9% | 89.8% | 83.8% | 89.4% | 88.6% | | | |
| | ● | 「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合 | ＊ | C | 今後、利用者調査で測定予定 | | | | | | | | |
| | ● | 科学への興味喚起度（利用者調査・定量） | ＊ | C | 80%以上が満足（平成27年度から） | | 90.7% | 90.2% | 89.3% | 89.3% | | | |
| | ● | 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性） | | D | | | A+ | A+ | A+ | A+ | | | |
| | ● | 幅広い年齢層からの支持（削除） | ＊ | C | 中高生・20代の青年層と、50代以上の熟年層の総利用者に対する割合をそれぞれ10%程度を維持する。 | | | | | | | | |
| | ● | リピーターの比率の維持 | ＊ | C | 50%～60%を維持 | 54.1% | 53.5% | 59.1% | 58.4% | 65.0% | | | |
| | ● | ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組 | | B | 検討／実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | 年齢別プログラムや事業の取組数 | ＊ | A | （小学校低学以下向け） | 延294日 40,511人 | 延275日 40,088人 | 延316日 61,323人 | 延522日 73,261人 | 延316日 57,011人 | | | |
| | | | | | （小学校高学年～中学生向け） | | 延407日 32,160人 | 延106日 11,623人 | 延89日 8,567人 | 延115日 10,669人 | | | |
| | | | | | （中学生～大人向け） | | 19回 1,227人 | 23回 1,628人 | 24回 1,244人 | 26回 1,466人 | | | |
| | ● | 「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合 | ＊ | C | 今後、利用者調査で測定予定 | | | | | | | | |
| | ● | 多摩地域の価値を見出せる事業の実施 | | D | | | A | A | A+ | A | | | |
| | ● | ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組（新規） | | B | | | | | 実施 | 実施 | | | |
| | ● | ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組（新規） | | D | | | | | B | A | | | |
| | ● | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）（削除） | | D | | | | | | | | | |
| 長期的な成果 中期的指標 | ■ | 圏域市民の科学館の認知度 | ＊ | E | | | | | | | | | 91.9% |
| | ■ | 圏域市民の科学館の利用度（全体・未認知者も含む） | ＊ | E | | | | | | | | | 67.2% |
| | ■ | 圏域市民の利用時の満足度（満足＋どちらかと言えば満足の割合） | ＊ | E | | | | | | | | | 92.6% |
| | ■ | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量） | ＊ | E | | | | | | | | | 5.49 |
| | ■ | 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）（削除） | | D | | | | | | | | | A |
| | ■ | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）(定量) 指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につき、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館 | ＊ | E | | | | | | | | | 4.99 |
| | ■ | 圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| | ■ | 科学の担い手の育成 | | F | | | | | | | | | A+ |
| | ■ | 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか（定性） | | F | | | | | | | | | A+ |
| | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定量） | ＊ | E | | | | | | | | | 4.17 |
| | ■ | 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定性） | | F | | | | | | | | | A |
| | ■ | 「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ３年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。 | ＊ | E | | | | | | | | | 5.8 |
| | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価（追加） | ＊ | E | | | | | | | | | |
| | ■ | 「市民から愛される科学館」としての評価（追加） | | F | | | | | | | | | |
| | ■ | 「多摩六都科学館の活動が圏域市民にとって、地域にとって価値あるものであった」という観点からの評価 | | F | | | | | | | | | A+ |
| | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定量) | ＊ | E | | | | | | | | | 4.9 |
| | ■ | 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定性) | | F | | | | | | | | | A |

平均値：4.94

## 4. 評価結果（定性評価）

| | 自己評価 | | | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 今年度の取組結果･成果 | 課題・今後の取組方針 | 目標の達成状況 | 評定 | 総評（総括的な意見等） |
| H29 | 今年度は地域を強く意識した企画や、実験的イベントが数多く実施できた。<br>地域の魅力関連では、東久留米市出身のアーティスト・大小島真木氏による88星座、秋の企画展『今晩なに食べる？』、春の企画展『たまろく水辺の案内所』で地域の価値の言語化並びに市民活動の内容の発信ができた。<br>さらに秋の企画展を受けて運営連絡協議会でも『食と農』を展開し、協定先の東京大学生態調和農学機構、機械振興協会、西武鉄道や、各圏域の気鋭の実験的農家との市民参画の農と食のあるべき姿のイメージ化をしつつある。<br>実験的イベントとしては、ＩＰＭＵによるオール英語のサイエンスカフェ、夏の企画展では、集客が心配されたが難解な数学を取り入れた『パズル展』、さらに平日大人向けの講座開催などを実施し、すべて期待以上の成果が出ている。 | 科学館という施設の性格上、科学リテラシーの育成が、地域リテラシーの向上につながっていくことが一番望ましい活動であり効果が大きい。そのことを踏まえ、多くの人が集まる場所の特性を生かした、地域の方々が世代や立場を超えて交流し、生涯学習や社会参画をする地域づくりの場となることをさらに進める。<br>ソーシャル・インクルージョンをベースに、地域の課題解決やコミュニティーの再生を果たすべく、科学館が地域の交流拠点（コミュニケーション・プラットフォーム）となって、地域の人々や研究機関などの活動を支援し活性化が進むよう、地域づくりに取り組む人材の育成へとつなげていく。<br>また一方で、科学館の活動を通して地域資源の発掘や価値づけ、地域資源の言語化を行い、多摩六都の魅力を広く発信する。 | A⁺ | A⁺ | 年間の利用状況（24万人の来館者数）、経営状況、中期目標に対する成果、年齢別プログラムの実施と成果等、定量指標も定性指標も大きな成果を上げている。<br>また、全英語のサイエンスカフェ、平日の大人向けの講座、パズル展などの企画展、「食と農」という新しいテーマへの取り組みなど、意欲的かつ実験的な事業を数多く実施され、それぞれに成果を上げたことは高く評価したい。さらに、新企画を試みながらもこれらの中から定番となる事業を育てていただきたい。<br>地域とつながる新しい企画を打ちだし、量的にも質的にも着実に成果が上がっている。地域資源の発掘・価値づけは、多摩六都科学館の重要な活動のひとつとして、今後も継続して取り組んでほしい。<br>「ソーシャル・インクルージョン」への取り組みは意欲的なことではあるが、慎重に進めるべき課題だと思う。地域課題というのは一般論ではなくて、圏域の地域課題とは何なのかを現況把握した上で精査していくことが必要だと思う。 |
| H30 | この1年、行政側からのアプローチが増加傾向になって来た感がある。多摩六都科学館の企画力と発信力が認知され始めたとも考えられる。具体的には教育委員会や環境部からの依頼で連携活動が始まっている。<br>プログラミンング教室が実質的にスタートし、教育委員会や教育現場が2020年に向けて試行錯誤している中で、多摩六都科学館に大きな期待を寄せていると感じられる。<br>昨年度実験的に開催したイベントも今年度拡大して開催しており、またサイエンスレクチャーやサイエンスカフェも内容のバリエーションを増やし、全世代に対する生涯学習施設としての価値が高まっていると考えている。<br>東大大豆塾・運営連絡協議会における「農と食のプロジェクト」で市民主導の動きが見えてきたことが将来的な成果と言える。 | 科学館事業に関しては、スタッフの成長や能力の向上もあり、意欲的な新しい企画が多く生み出されており、非常に良い状況にあると言える。今後もマンネリ化を排除し、常に新しい何かに取り組む事を継続していきたい。<br>地域拠点事業に関しても、圏域の多くの個人・団体との繋がりが出来ており、協力しての事業を行ってきている。<br>平成31年度の文化庁からの助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生プロジェクト」に採択されたこともあり、ともすれば理解しにくいソーシャル・インクルージョンを具現化し、それをもって地域の課題解決やコミュニティーの再生を果たす圏域の交流拠点＝ハブ（コミュニケーション・プラットフォーム）のイメージをデザインしていきたいと考えている。 | A⁺ | A⁺ | **今年度事業の成果に対する評価**<br>年間24万人の科学館利用者数や駐車場利用台数ともに高水準を維持していること、科学館事業、地域拠点事業、マーケティングの充実など大きな成果をあげている点を高く評価する。また、重点的な業績指標（KPI）への評価が高いこと、行政側からのアプローチが増えている点は、科学館の地域資源としての評価が高まりつつある現れと言えよう。<br>また、組合と指定管理者の関係はパートナーとして協力しながらも、情報格差が起こらないように緊張感のあるガバナンスが必要であるが、この点もうまく機能していると思われる。<br>**今後の課題・今後への期待**<br>ソーシャル・インクルージョンや地域のハブ化といった取り組みは、館の活動を通して地域の課題を解決することであり、短期間で成果のあがるものではなく、長期的な取り組みが必要である。引き続き、圏域の交流拠点となる努力を一層続けてほしい。<br>ソーシャル・インクルージョンについては、科学館ボランティアとの協働や地域の人的ネットワークをさらに強化・拡大することによって、具現化につながる可能性が高い。今後の展開に期待したい。 |
| R1 | | | | | |

本報告書2～10頁の「2. 中期の重点戦略ならびに業績指標」一覧内の「事業概要」列に記載されている番号は、
「平成30年度 指定管理者事業報告書」内で、その指標に該当する事業項目を指す。
詳細は「平成30年度 指定管理者事業報告書」を参照。

**多摩六都科学館事業一覧**


| 「平成30年度 指定管理者事業報告書」　目次 | | | | 該当頁 |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ** | **概要** | | | 1 |
| | 1 | 指定管理者 | | 1 |
| | 2 | 施設概要 | | 3 |
| | 3 | 施設の利用状況 | | 6 |
| **Ⅱ** | **指定管理業務事業報告** | | | 9 |
| | 1 | 科学館事業 | | 9 |
| | | 1-1 | 調査研究・収集保存活動 | 9 |
| | | 1-2 | 展示活動 | 11 |
| | | 1-3 | 天文映像活動 | 20 |
| | | 1-4 | 参加体験型学習活動 | 24 |
| | | 1-5 | 学校連携・支援 | 27 |
| | | 1-6 | 人材育成・研修活動 | 32 |
| | | 1-7 | 研究機関・関連団体との連携活動 | 38 |
| | 2 | 地域拠点事業 | | 43 |
| | | 2-1 | 地域の交流拠点活動 | 43 |
| | | 2-2 | 地域資源創造・魅力発信活動 | 52 |
| | 3 | マーケティング | | 54 |
| | | 3-1 | 顧客開発 | 54 |
| | | 3-2 | 市場調査 | 55 |
| | | 3-3 | 広報・PR活動 | 56 |
| | 4 | 運営管理 | | 59 |
| | | 4-1 | チケット発券・利用案内 | 59 |
| | | 4-2 | 安全管理業務 | 59 |
| | | 4-3 | 設備管理業務 | 60 |
| **Ⅲ** | **収支報告** | | | 64 |
| 資料 | | | | 67 |
| 利用者アンケート集計結果 | | | | 80 |

**多摩六都科学館組合事業評価委員会条例**

平成16年３月３日
条　例　第　２　号

(設置)

第１条　多摩六都科学館の事業評価を行うため、多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第２条　委員会は、管理者の諮問に応じ、次の事項について調査し、検討し、及び答申する。

（１）主要な事業成果の検証について

（２）その他管理者が必要と認める事項

(組織)

第３条　委員会は、学識経験を有する者のうちから、管理者が委嘱する委員５人以内で組織する。

(委員の任期)

第４条　委員の任期は、２年以内とする。ただし､再任を妨げない。

２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

２　委員長は、委員会の会務を総理する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集等)

第６条　委員会は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第７条　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第８条　委員会に関する庶務は、多摩六都科学館組合事務局において処理する。

(補則)

第９条　　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

この条例は、平成16年４月１日から施行する。

**多摩六都科学館組合事業評価委員会委員名簿（第7期）**

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例（平成16年条例第２号）第３条の規定に基づき、５人の委員に委嘱している。

| 役　職 | 氏　名 | 所　属 |
|---|---|---|
| 委員長 | 柴田　徳思 | 東京大学 名誉教授 |
| 副委員長 | 桧森　隆一 | 北陸大学 副学長・教授 |
| 委員 | 小谷　泰弘 | 東久留米市在住市民（科学館ボランティア会代表） |
| 委員 | 坂本　和弘 | 葛西臨海水族園 副園長兼飼育展示課長 |
| 委員 | 杉浦　幸子 | 武蔵野美術大学 芸術文化学科 教授 |

## 多摩六都科学館組合市民モニター設置要綱

平成 27 年6月1日
決定

(目的)

第1　多摩六都科学館組合(以下「組合」という。)における事業評価活動を推進し、市民の理解と協力を得てニーズに適った効用の高い科学館運営を図ることを目的として、市民モニターを置く。

(職務)

第2　市民モニターは、次の職務を行う。

(1)組合の依頼する調査等に協力し、意見を述べること。

(2)市民モニター会議、研修会等に参加すること。

(3)その他組合の事業評価活動と広聴活動推進に関して必要な事項に協力すること。

(定数及び委嘱)

第3 市民モニターの定数は、10名以内とする。

2 選任は、原則として公募により、年齢、地域等を考慮して、組合管理者が委嘱する。

(資格要件)

第4 市民モニターは、次の要件を満たす者とする。

(1)満 20 歳以上の組合構成市の市民であること。

(2)組合の公職者及び組合構成市の職員でないこと。

(委嘱期間)

第5 市民モニターの委嘱期間は、1年以内とする。

(委嘱の取消し)

第6 市民モニターが、次の各号の一に該当するときは、委嘱を取り消すものとする。

(1)第4に定める資格要件を失ったとき。

(2)辞退を申し出たとき。

(3)職務の遂行ができなくなったとき。

(4)その他組合管理者が取り消す必要があると認めたとき。

(報償費)

第7 市民モニターに対しては、予算の範囲内で謝礼を支払うことができる。

(庶務)

第8 市民モニターに関する事務は、組合管理課が行う。

2 管理課長は、必要に応じて、多摩六都科学館指定管理者と次に掲げる事項を協議する。

(1)市民モニター会議・調査の課題の決定。

(2)その他本業務運営に関すること。

(委任)

第9 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については組合管理者が別に定める。

附則

この要綱は、平成 27 年6月1日から施行する。

## 市民モニターによる評価実施の目的

多摩六都科学館組合は、市民モニターによる評価は、下記目的のために実施する。

●事業結果や定量的な調査では測れない指標について、圏域市民の立場から定性的に評価を行う。

●定性的な実績指標について、中期的な観点から、年度毎の評価を行う。

●多様な立場のステークホルダーからの支援を継続していくために、変化していくニーズや価値観を把握する必要がある。そこで、市民モニターを通して圏域市民の「支援開発志向」を定点で調査できる手段としても活用し、支援体制や協力体制のあり方やニーズの把握に役立てる。

## 多摩六都科学館組合事業評価　市民モニター名簿

市民モニターの人選は、多摩六都科学館のステークホルダーのうち、中長期的な観点から科学館事業を定性評価できる圏域市民10名の方々に依頼を行った。

| No. | 住所・所在地 | 性別 | ステークホルダー種別 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小平市在住 | 女性 | 市民・友の会・公募 |
| 2 | 小平市在住 | 女性 | 市民・友の会・公募 |
| 3 | 清瀬市在住 | 男性 | 市民・友の会・公募 |
| 4 | 小平市在住 | 女性 | 市民グループ |
| 5 | 西東京市在住 | 女性 | 市民グループ |
| 6 | 西東京市在住 | 女性 | 市民グループ |
| 7 | 東久留米市在住 | 女性 | 事業協力者 |
| 8 | 西東京市在住 | 女性 | 学生・継続的ユーザー |
| 9 | 東村山市 | 男性 | 市民 |
| 10 | 西東京市 | 女性 | 市民 |